

## 春花園盆栽美術館へのお誘い

盆栽は、中国、韓国、台湾はもとより今や欧米や中近東、北欧諸国等のあらゆる国々に大変なブームを引き起こしている日本の誇る芸術と言われているのはご存知の通りです。

盆栽は、様々な小さな樹木をあたかも大木のように作り見せたり、樹齢の浅い樹木を古木のように造り替えたりする日本人特有の繊細な技術に魅せられるからだろうと思われま

す。世界的な盆栽ブームに伴い日本を訪れる多くの外国人は盆栽の実物の様々な形態を自分の眼で確かめたがっているようです。

外国人観光客の多くは、花と緑の会でも平成23年11月に皆様をご案内した大宮の盆栽村へバスで赴き、盆栽農家を訪ねて盆栽の数々に感嘆している様子がマスコミ等でも報道されているのはご存知の方も多と思います。ところが、その外国人観光客の大半が春花園盆栽美術館へ来ると態々遠方の大宮まで行かなくても初めからここへ案内してくれば良かったとの感想をガイドに言うそうです。

というのも、大宮の盆栽村では盆栽の逸品が各盆栽農家に散在している上に、管理上の点からも通常は眼にする機会も稀なのですが、当美術館では、樹齢数百年の素晴らしい高価な盆栽の数々が屋内外に展示されていて誰でもいつでも観賞できるようになっているので諸外国から訪れる観光客にも喜ばれるからだと思

います。盆栽を飾るのに相応しい和室が連なっている美術館は、総工費10億円を掛けて宮大工が建てたという約純和風建築は、外では滅多に見られない建物で、建物を見るだけでも一見の価値はあります。

ここは、小林國男氏という一人の卓越した盆栽芸術家の個人の邸宅と庭(約800坪)が美術館になっています。同氏は、世界各国に盆栽技術の出張指導に飛び回っているようですが、同氏から直接盆栽芸術の実際の指導を受けに来ている研修生も、中国、韓国のみならず中近東諸国や欧米各国からも受け入れその実習風景も研修棟の傍で見学もできます。

盆栽には全くの素人である筈の外国人ですら盆栽美術館に来て感激して帰る程ですから、日頃盆栽などの繊細な芸術に親しみのある日本人である私達が春花園盆栽美術館を訪れて、盆栽と純和風建築の建物を見学すれば、その素晴らしい価値をきっと認めて頂けると思いが案内するところです。

世話人 永坂和也

